



地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、東北地域ブロックおよび関東地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

東北地域ブロックから

東北地域ブロック担当理事
元村智明（東北福祉大学）

日本社会福祉学会では、2026年度の秋季大会よりブロック単位の大会運営の試みが始まります。ご存知のとおり2026年度の秋季大会は、北星学園大学で9月19日(土)から20日(日)に開催されます。

秋季大会のブロック運営は、開催校のお引き受けが難しくなっている背景もあると思いますが、他方で大会運営をブロック単位で検討しながら経験できる機会にもなります。それは、学会会員にとり学会発表や機関誌への投稿等が学会会員としての活動を意味するのではなく、他方で大会運営を含めた学会活動を支えることを意味するのだと思います。

2027年の第75回秋季大会は、東北ブロックでの開催が予定されています。これまで東北ブロックでは、各県を代表する委員（幹事）により組織される東北部会委員会（幹事・監事会）で東北ブロックでの研究大会を輪番制で開催してまいりました。来年の第75回大会につきましても東北ブロックで協議してきた結果、東北ブロックでの開催のお引き受けのご承諾と東北福祉大学で開催をお引き受けすることができました。心より感謝申し上げます。

去る第69回秋季大会は、東北福祉大学で開催されましたがコロナ禍のためオンライン大会でした。そのため、対面でお迎えができる大会としては2005年の第53回大会以来の22年ぶりのように思います。それ以前にご参加の方は、1988年の第36回大会や1972年の第20回大会の東北福祉大学での開催にご記憶のある会員もいらっしゃるかもしれません。

東北ブロックでは年に1回、東北六県が持ち回りで研究大会を開催し、2025年大会は秋田大会（秋田県社会福祉会館）で開催し、2026年は宮城大会を初夏に予定しています。そのため、小規模ではありますが各県で研究大会運営を少しずつ経験しながら2027年の第75回秋季大会を迎え、東北ブロックとして全国の会員の方々を仙台にお迎えしたいと思います。

大会運営は、その経験が少ないと通常業務のなかで難しさを体感的にも感じるでしょうし、実際に大変なのだと想像します。それでも大会をお引き受けすることで、そのブロックにとっても発表者や参加者を広げることになるでしょうし、在学中の学部生や大学院生にとっても大会運営は良い体験や経験になるのではないのでしょうか。きっと、これまでも多くの会員の方にとっても在学中の大会の思い出があるように思います。いつか振り返った時に、思い出となる大会でありたいと思います。

2026年は、大学の進学者数が減少に転じる年であるとの報道もありますが、他方で地域社会に根付くことが求められる大学として秋季大会は、開催校のみならず学術情報の発信の場になりそうですし、学会の存在理由も問われる機会となるのではないのでしょうか。

2026年5月の定時総会において、新たな理事会組織とブロック体制となりますが、2027年第75回秋季大会に向けて仙台でお迎えしたく、どうぞよろしくお願いいたします。

関東地域ブロックから

関東地域ブロック担当理事

荒井 浩道(駒澤大学)

関東地域ブロック(略称:関東部会)は、所属会員数1,500人以上の大規模地域ブロックです。研究者・実践者・教育者が分野横断的に集い、社会福祉学の現在地と次の課題をともに探究しています。社会保障、ソーシャルワーク、地域福祉、児童家庭、障害、高齢、医療、貧困、司法福祉など、扱うテーマは広範であり、理論研究から実践研究、政策研究まで多様な方法論が交差します。そうした厚みのある知の集積を背景に。関東地域ブロックは「現場の問いを学術の言葉へ、学術の知見を実践と政策へ」と往還させる対話と連携の基盤を整え、世代や所属を越えた協働を育むことを目指しています。

関東地域ブロックでは、毎年度末に研究大会を開催しています。午前は自由研究報告、午後は講演およびシンポジウムを配置し、研究交流と学びの機会を確保してきました。自由研究報告は、①研究報告(報告30分+質疑20分)、②萌芽的研究報告(報告15分+質疑10分)、③実践報告(報告15分+質疑10分)の3部門を設け、研究の成熟度や目的に応じて応募しやすい設計としています。

【2025年度研究大会のご案内】2025年度の研究大会は、2026年3月22日(日)にオンライン(Zoom)で開催され、テーマは「戦後80年の社会福祉」です。参加費は無料で、開催趣旨・プログラム・申込等の詳細は研究大会ページをご参照ください(<http://www.jsssw-kanto.jp/1689>)。

また、関東地域ブロックでは、機関誌『社会福祉学評論』の編集・発行を重要な柱として位置づけています。同誌は、関東地域ブロックにおける研究大会や日頃の研究活動で生まれた知見を記録し、学術的な蓄積として継承・発信していくための媒体です。原著論文に加え、研究ノートや実践に根差した論考なども掲載し、社会福祉学の多様性を担保しつつ、理論・方法・実践の接続可能性を広げることを目指しています。投稿・査読・編集のプロセスを丁寧に運用し、若手研究者や大学院生にとっては研究を公表し鍛える機会として、実践家にとっては現場の知を言語化し学び合いに活かす場として、

それぞれに開かれた媒体であることを大切にしています。また、同誌掲載論文を対象とする奨励賞を設け、優れた研究を顕彰することで、研究意欲の喚起と質の向上にも取り組んでいます。

最新情報（研究大会、自由研究報告募集、機関誌等）は、ウェブサイト(<http://www.jssw-kanto.jp/>)に随時掲載しています。関東地域ブロックの厚みを活かし、分野や立場を越えた対話と協働をいっそう促進してまいります。